日本共産党 川崎市会議員（多摩区選出）市政報告　2021.2月 No.10

赤石ひろ子 市議会LETTERS

発行・連絡先　日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1　川崎市役所第2庁舎7階
TEL044-200-3360　FAX044-245-4140
登戸事務所TEL044-930-1885

facebook Twitter
www.akaishi-hiroko.jp/
赤石ひろ子の公式ブログ
QRコード

コロナ感染者急増で病床は満床寸前。医療・暮らし・事業を守る緊急対策を！

昨年11月24日～12月17日に開催された2020年第6回川崎市議会定例会。すでにコロナ感染拡大の第3波は始まり、県知事による「医療アラート」も発動。日本共産党は代表質問でも、新型コロナ感染防止対策や市の医療提供体制、検査体制をはじめ、教育、雇用経済など、各分野にわたりコロナ対策についてただしましたが、赤石ひろ子市議も、12月15日の一般質問でコロナ禍と関係深いテーマなどを取り上げました。

12月議会で一般質問に立つ赤石ひろ子市議。

コロナ禍で介護現場や非正規雇用の問題噴出

コロナで人手不足がいっそう深刻に。訪問介護者への市独自の支援を

コロナ禍でも求人倍率15倍なのに集まらないヘルパー職

共産党の代表質問で特別養護老人ホームの増設を求めたのに対し、市は「第8期計画」での特養ホームの追加増設はせず、在宅サービスを整備していく」と答弁（健康福祉局）。しかし、在宅介護を担う居宅介護事業所、なかでも訪問介護ではスタッフの高齢化やコロナによる離職で、人手不足が深刻になっています。このままでは特養にも入れず、在宅介護も受けられない多くの介護難民が出るのは必至。ホームヘルパーの確保は急務です。市は「介護人材マッチング・定着支援事業」等を実施するとしていますが、賃上げや待遇改善なくして人材確保は望めません。横浜市では新たに介護職員を雇用した事業所に対し、6万円を上限に借り上げた部屋の家賃を半額助成する住居確保の支援を行っています。本市でも生活支援などへの取り組みを求めました。

コロナで困窮きわめる非正規シングル女性の実態把握を早急に

急増する女性の自殺。受け止めるセーフティーネットを

派遣やパート、アルバイトなど、非正規職で働く独身女性、いわゆる「非正規シングル女性」は就職氷河期世代で大量に生み出され、近年さらに、働き方改革やコロナ禍でその層が拡大し、貧困化も進んでいます。大阪市が2018年しかし、本市での非正規シングル女性の実態調査はいまでも未実施です。早急に実態調査を行い、就労支援や労働相談、メンタルヘルス相談、住居確保のための支援、スキルアップ支援など、幅広い視野からの支援を検討するよう求めました。

緊急！ URGENT TOPICS

緊急事態宣言再発出を受け、市に緊急申し入れ。臨時議会の招集を

宗田団長、片柳議員が伊藤副市長に申し入れ。

1都3県への緊急事態宣言が再発出された1月7日。同日朝の時点での県内の即応病床における重症病床使用率は97.5%、残りわずか4床に。川崎市でも新規陽性感染者数は195人になり、前の週に比べ2倍に急増し、市長も「医療ひっ迫」に言及しました。

こうした状況を受け、日本共産党市議団は1月8日、「緊急事態宣言の再発出を受け、医療・暮らし・事業を守る緊急要望書」（下記の4項目）を市長あてに提出しました。緊急に病床を増やし、医師、看護師を確保するための医療支援、検査数拡大、困窮する事業者への市の上乗せ支援など、緊急対策を講じるためにも臨時議会を開き補正予算を組むよう強く求めました。

緊急事態宣言を受け、医療・暮らし・事業を守る緊急要望書(第8次)

1. 緊急にコロナ病床を増やし、医療機関への減収補てんをおこなうこと
2. 医療機関・高齢者施設への一斉・定期的PCR検査をおこなうこと
3. 飲食店などには、安心してお店を閉めることのできる十分な補償をおこなうこと
4. 以上の項目について、補正予算を組み、対応するために臨時議会をひらくこと

赤石ひろ子 市議会LETTERS　2021.2月 No.10

12月議会一般質問より

地域の課題に ZOOM IN!

約2ヘクタールものダイエー跡地。解体工事や開発のゆくえは？

登戸

昨年9月末で閉店したダイエー向ヶ丘店。生田緑地や藤子・F・不二雄ミュージアムなどへの導線上にある広大な跡地に何が建つのか、地域住民の関心が高まっています。12月議会時点で市には解体工事や事業計画などは提出されていないとのことでしたが、環境アセスメントやタワーマンション建設の可能性などについて質問しました。解体工事に伴う騒音、振動、交通規制等については、住民説明会後も市として監視すること、開発行為に関しては高さ20メートルを超える建築物を可能とする手法はさまざまあることなどを確認。「商業施設は歓迎するがタワマンは問題だ」など、住民の声を聴きながら、引き続き動向を注視していきたいと思います。

囲われて解体工事を待つばかりのダイエー向ヶ丘店。

公園整備が予定される中野島３丁目のさく井用地。

完成予定は2022年。待望の公園整備が動き出します

中野島

多摩区にある生田浄水場の水源として使われてきた井戸、さく井のうち、中野島3丁目にある5号さく井用地の土地活用について「公園用地として使用を許可する」とした井口市議への答弁の進捗について質問しました。建設緑政局の答弁は「現在、整備に向けた実施設計を行っているところで、複数の整備案をもとに、地域の要望等を聞きながら、本年2月末を目途に整備内容を決定。その後、2021年度に工事を行い、2022年の供用開始を予定」とのことです。中野島は住宅開発が進む人口増加エリア。街区公園がなかったこの地域のみなさんの念願の公園が、もうじき工事開始です。

利用実態の正確な調査もない小田急バスのコロナ減便に異議

三田

昨年秋ごろから、コロナ禍による乗客減少を理由に、市内で民間バスの減便が相次いでいます。小田急バスもしかりですが、「向ヶ丘遊園駅～明治大学正門前」路線を利用する地域住民からたちまち困惑の声が上がりました。この路線は、坂が多く、多摩区でも高齢化が最も進む三田地域を通っています。それにもかかわらず、高齢者フリーパスの利用者は乗客数に正しく反映されておらず、利用実態に合っていません。区役所や病院へ行くための重要な足であり、減便で時間帯によってはむしろ混雑し三密状態も。川崎市として民間バス事業者へ、住民との丁寧な話し合いを行い、減便撤回を促すよう求めました。（左下に関連記事）

平日の９時台は高齢者や乳幼児連れも多い。

一般質問で取り上げた地域要望、住民運動のいま。

減便撤回を求め小田急バス本社交渉へ

昨年11月「向ヶ丘遊園～明大正門」間のバスダイヤが改定され、昼間は1時間に2便が1便へと減便に。多摩区で最も高齢化が進む三田地域では、高齢者や障がい者などにとって「足」がそがれる事態です。住みやすい街づくりをめざす「まちもりカフェ」に集う人々が中心になって集めた署名は、わずか1週間で900人も。これを持って12月24日、数人が小田急バス本社で窮状を訴えました。「早急な対応は困難だが、真摯に受け止め、検討したい」という回答文書を励みに、今年さらなる取り組みを進めます。（バス路線利用者・住民の会　大図建吾さん）

街頭で署名に応える皆さん。

市バス路線の請願を市議会へ

「宿河原・堰地域に市バスを通す会」が中心となり、最寄り駅や病院などにも行きやすいバス路線新設の請願署名運動が進みました。3,203人分の署名が集まり、11月20日に請願書と署名簿が提出されました。署名議員には、赤石市議と多摩区選出の無所属議員の計2人が名を連ねています。年が明けて市議会環境委員会のもとで審議されますが、「会」では多数の傍聴で行方を見守りたいと思います。地域住民の願いと運動が重視される市政に期待したいと思います。（宿河原・堰地域に市バスを通す会　吉田幸江さん）

議会局議事課に請願署名を提出する代表者。

梨花百々 りんかひゃくびゃく ⑩

昨年末、文科省による公立小学校の35人学級化が決まりました。少人数学級の早期実現はコロナ禍以前より、市議会でもわが党が繰り返し求めてきたことであり、大きな前進です。子どもにとってのゆたかな学びとはどういうことか、改めて考えました。そんな折『しんぶん赤旗』の新春対談で、同志社大学教授・岡野八代さんが話されていたお父上の言葉が目に留まりました。「教育で大事なことは『できる』子を育てることじゃない。『わかる』喜びを伝えるのが教育なんだ」。小学校教員だったお父上の口癖。わかる喜び、まさにコレだ！　と思いました。

私の息子は知的障がいがあり、算数の繰上げですでにつまづいていました。あれこれ手を尽くし、あるときゲームのテトリスになぞらえて、カチッとはまって10になれる数字の組み合わせ探しを提案。そのとき息子の瞳がキラリと輝いた瞬間を私は忘れることができません。一人ひとりのわかる喜びを待って、引き出せるゆとりが学校にはどうしても必要です。（赤石ひろ子）